

中間事業報告書

[平成13年4月1日～平成13年9月30日]

第22期

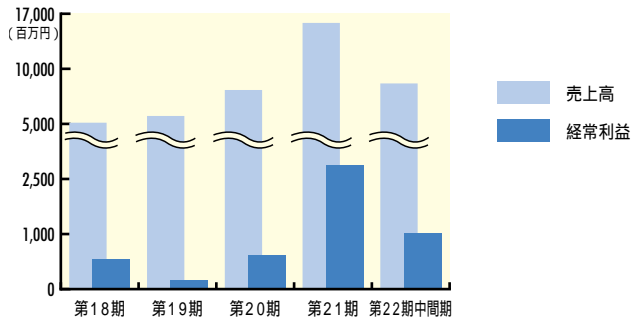
株式会社 フェローテック

Fellowtec

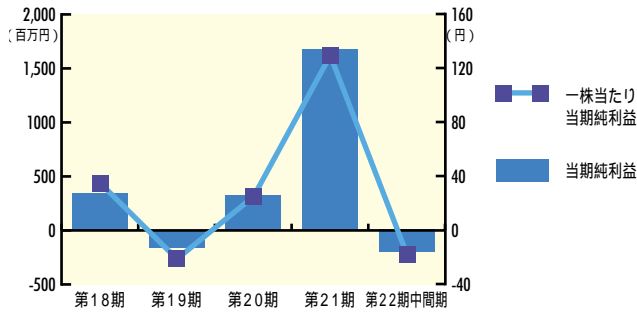
財務ハイライト

連結

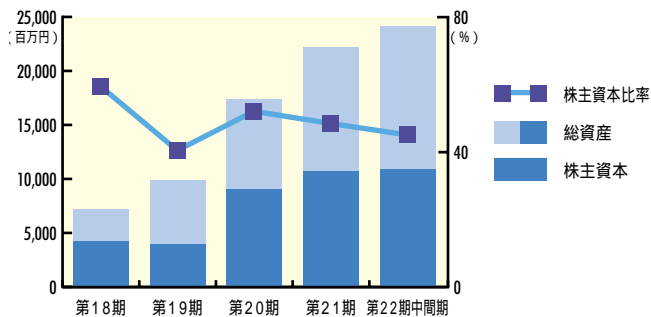
売上高・経常利益



当期純利益・一株当たり当期純利益

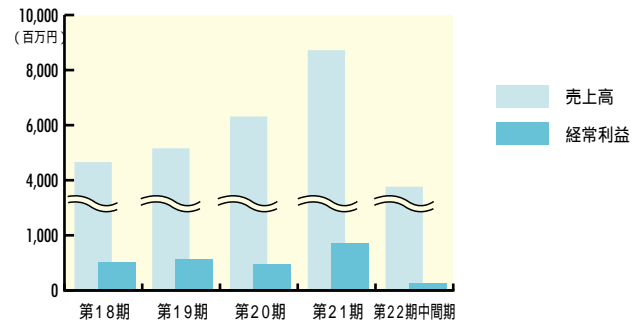


総資産・株主資本・株主資本比率

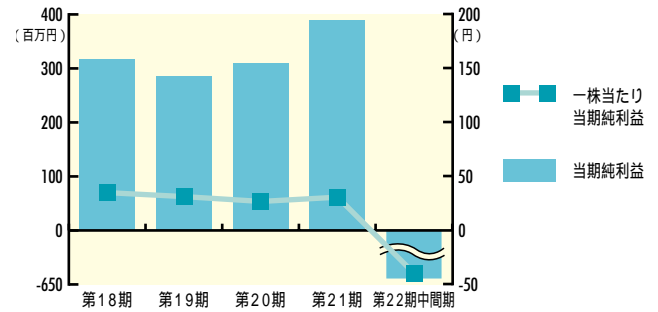


単体

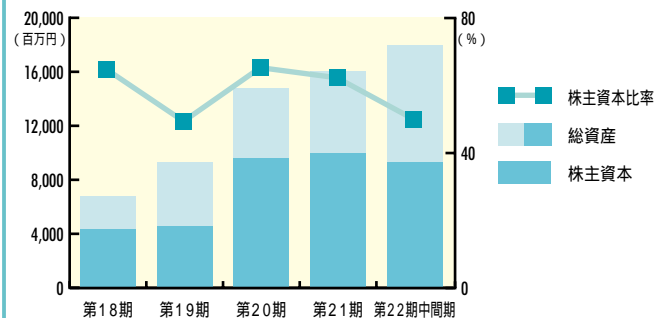
売上高・経常利益



当期純利益・一株当たり当期純利益



総資産・株主資本・株主資本比率



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年度上半期におけるわが国の経済は、アメリカ経済の減速、IT不況などの影響を受け、総じて厳しい状況にありました。当社を取り巻く環境も、半導体市場の悪化に伴い急速な調整局面に入っています。

このような厳しい環境の中で、当中間期の連結売上高は前年同期に比べて17.2%増の87億17百万円となりましたが、連結営業利益は将来を見通した戦略的な部門強化策による販管費の上昇により20.2%減の10億29百万円、連結経常利益は7.8%減の9億97百万円となりました。また、連結子会社であるフェローテック精工を解散することに伴う特別損失を計上したことなどにより、連結中間純損失は2億35百万円となりました。

当社はエレクトロニクス産業のみならず、ものづくりにおける競争力の高い技術を有するとともに、製造拠点を中国に集約し、安価で高品質の製品を世界に送り出すグローバルな製造業を目指しています。

今後の経営戦略としましては、受託生産事業CMS(コントラクト・マニュファクチャリング・サービス)を進め、企業価値の向上に注力していきます。また、さらなる中国での展開、日本・アメリカでのエンジニアリングの充実を図り、M&Aも積極的に検討していき、社員一同業績の向上に一層努力してまいります。

株主の皆様におかれましては、一層のご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



A handwritten signature in black ink, which appears to be '山村 章' (Yamamura Masahiko).

代表取締役社長 山村 章

特集・社長インタビュー

山村 章社長に“不況期にも利益を出せる強い企業体制”の確立を目指すための、今後の取り組みと戦略についてお聞きしました。

最初に中間期の減益要因をお聞かせください。

山村：数年前に小型電子部品の搬送機器の開発を狙いとして買収した株式会社フェローテック精工（旧社名：森久製作所）を解散することにしました。これに伴い、連結調整勘定6億74百万円を一括償却し、特別損失として計上しました。同社解散の直接の要因は、収益源としてきたコイン洗浄機事業が悪化し続けたことによるものです。世界的なIT不況が続く中、当社グループの経営資源を整理統合し、サーモモジュールや、来るべき半導体産業の設備投資再開に備えるため、さまざまな方面で利益を確保できる体質に転換するために決断をいたしました。

米国におけるテロの影響はいかがですか。

山村：欧米、日本を主要なマーケットとしていますので、やはり米国の落ち込みは痛いというのが率直な感想です。クリスマス商戦がにぎわうなどの、早期の回復を望んでいます。

今回の事件をきっかけに、リスク回避を目的としたサーバーの需要が世界的に増加する傾向にあります。つまり、システム防御用にサーバーを複数設けるケースや、遠隔地にあっても操

サーモモジュール

特徴

サーモモジュールとは、対象物を暖めたり冷やしたりする半導体素子のことです。N型とP型という異なる特質を持った半導体素子に、直流の電気を流すと熱が移動し、一方の面が吸熱（冷熱）し、反対の面が放熱（加熱）するというペルチェ効果を応用したものです。電極の極性を逆にすると吸熱と放熱を簡単に切り替えることができます。

【用語解説】

ペルチェ効果：2種類の導体に電流を流すと、その接合部で発熱・吸熱が生じることをいう。1833年にフランスの時計技師ペルチェが発見した。

用途

レーザー、CCDなどの冷却
高級車の温度調整シート
半導体製造装置の薬液冷却
病院・ホテル用小型冷蔵庫（静音冷却）
レジャー用クーラーボックス
ワインセラー

作できるストレージを設けるケースです。この流れを受け、高性能サーバーのHDDに用いられる当社のコンピュータシールも需要が拡大すると見えています。

サーモモジュールは半導体関連以外にも、多様なニーズがあるようですね。

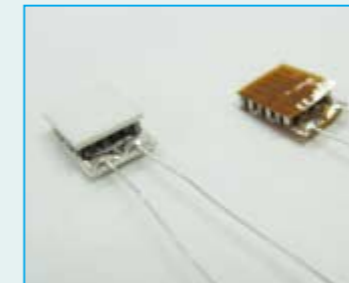
山村：現在でも国内におけるサーモモジュールの需要先は、半導体関連市場が大きな比重を占めるため、IT不況の影響を

フェローテックの製品戦略

新製品開発

樹脂を使ったサーモモジュール開発

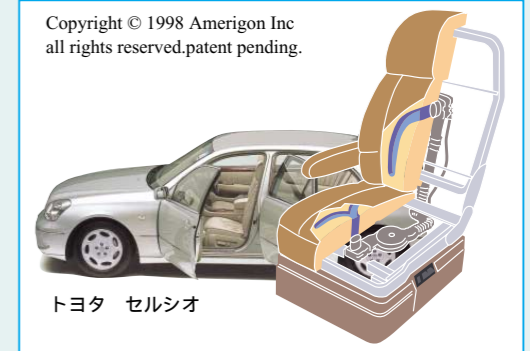
従来のセラミック板に代わりポリイミド樹脂を使用したサーモモジュールの開発に成功しました。この樹脂は耐久性、耐熱性に優れている上に変形が可能のため、折りたたみ式携帯電話のつなぎ目などに使用されるものです。従来のものに比べると材料コストが安く表面がしなやかなため、今までに使用できなかったさまざまな製品への応用が期待されます。



右：樹脂を使った熱伝素子
左：従来のセラミックス製

事業提携

アメリゴン社との提携により、自動車座席用温度調整装置クラインメートコントロールシートのアジア向け製品の100%をフェローテックが製造しています。またアメリゴン社はサーモモジュールの既存販売先となっていますが、単なる部品販売先から製品までを受託製造することによってフェローテックの事業価値を拡大する戦略をとっています。



受けています。しかし、ビデオカメラへの採用をはじめとした民生品への新しい応用も次々に生まれ、来年以降が楽しみな状況です。

自動車の温度調整シートへの搭載については、今後はアメリゴン社とのジョイントベンチャーを設立し、アジアにおけるセールスマーケティングを行っていく方針です。

サーモモジュールは、日本と米国の拠点が共同で材料の開発を進め、製造を中国で行っています。ワイヤー以外の部分はすべて社内でも製造しており、コスト競争力という強みもあ

ります。

半導体関連企業が大幅営業赤字を計上するなかでフェローテックが健闘できた要因のひとつは、中国における事業の多角化にあると思われれます。中国の経済の状況を含めてお話しください。

山村：世界経済が低迷するなか、中国が一人勝ちしている状態です。日本の高度成長期よりも速いスピードで成長してい

ます。近年は、中国政府の施策によって、国民一人ひとりがゆとりある豊かな暮らしを求める傾向にあります。それに伴い国営アパートを出て、マンション暮らしを始める層が登場し、家具市場が創出され、急拡大しています。

これを受け、当社では事業多角化の一環として、木工機械製造企業 2 社からの技術供与を受け、木工機械の OEM 製造を始めました。木材を裁断する精度の高いのこぎりも、中国で OEM 製造を本格稼働させていく予定です。

急速な経済成長を追い風に、当社の中国における水平展開の強みを生かし、一層の事業拡大に向け、今後も経営資源を投入していきます。

今後のコア事業と位置づける CMS (コントラクト・マニュファクチャリング・サービス) の成長性について教えてください。

山村：中国を生産拠点とし、日本並みの品質管理のもとで製造する当社の CMS は、さまざまなメーカーから大いに期待されています。中国は土地代が日本の 1/10、人件費が 1/20、エネルギー代が 1/2 の状況にあります。日本企業も米国企業にならって「工場を持たない経営」を進めており、当社に製造を委託するケースが確実に増える傾向にあります。当社にとっては、自社の生産設備を活用することでスケールメリットとコストメリットを生み出すことができます。

中国における事業展開に大変な自信をお持ちなのですね。ところで、米国・日本・中国のマネジメントの違いはどこにあるのでしょうか。

山村：国民性や政治制度など異なる部分はもちろんありますが、労働に対する基本的な考え方の違いが一番顕著だと思います。中国人はトップの働き以上には働きませんので、トップ自らが率先して働く必要があります。米国人は、評価次第で非常に働きます。また、意外と義理人情もあります。日本人トップの場合は、中堅が率先して働くものだと勘違いしている点が見られます。ひと昔前の日本企業の多くが中国企業と提携して失敗している要因は、こうした相互のマネジメントのスタイルをしっかりと把握できていない点にあります。当社の場合は、中国や米国におけるマネジメントを十分把握している現地人のトップにすべてを委ねています。

今後、経営資源をどのように使って企業価値を向上させますか。

山村：経営戦略的には CMS を軸としたものづくりに力を注ぎ、新たな事業提携を生み出し企業価値を向上させていきたいと考えています。

また、まもなく始まる半導体装置の洗浄・メンテナンス事業など、成長性の高い事業に経営資源を集中させます。新製品開発では、サーモモジュールや磁性流体応用製品に力を入れており、来年中にはさらに新しい結果を出せると思います。

最後に株主様へのメッセージをお願いします。

山村：これまでの経営を振り返ると、概ね順調に推移してきたものといえます。現在は経営環境が悪化していますが、3年ないし5年の長いスパンで見れば、フェローテックはさらに大きく羽ばたいていけるものと確信しています。

製品事業別セグメント

売上高構成比

サーモモジュール [6 %]

対象物を暖めたり冷やしたりする半導体素子です。直流電流を流すと一方の面が吸熱（冷熱）し、反対の面が放熱（過熱）します。半導体市場以外にビデオカメラなどの民生品への新しい応用も次々生まれています。



コンピュータシール [12 %]

コンピュータの記憶装置であるハードディスクドライブ（HDD）の中に、大切なデータを保護する防御装置として装着されているのがコンピュータシールです。

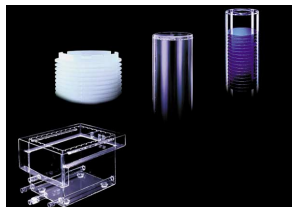


HDDの中へ

モーター内部で発生する超微細なゴミやチリが侵入するのを防ぎ、静電気を外部へ逃がすアースの役割を担っています。

当社のコンピュータシールは、HDD全体の30%に装着されており、種類別ではサーバー用が95%、上位パソコン用が65%となっています。コンピュータシールは、世界シェアの100%を占めています。

石英 [23 %]



半導体ウェハーや発光ダイオードの製造には、高温作業に耐え、活性

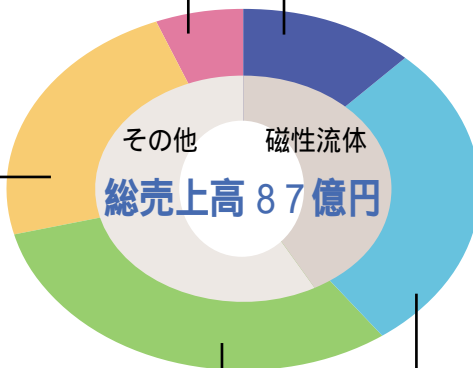
ガスとの化学変化をおこさない高純度の石英ガラス製品が必要です。シリコンウェハーの薄膜生成・搬送・洗浄などの行程でウェハーをホールドします。

半導体製造工程に必要な、あらゆる石英製品をラインアップしています。

その他 [31 %]

コントラクト・マニュファクチャリング・サービス（CMS）

受託生産事業。さまざまな機械メーカーから生産を受注し、素材調達から精密加工、組立を行い、完成品を供給します。



真空シール [28 %]



半導体ウェハーや液晶基板の製造には、真空状態やガスで満たされた密封空間を必要とします。真空シールは、真空加工装置の中を完璧な密閉状態にし、回転軸を通じて動力を伝えます。

製造工程では微細なチリさえも大敵となるために、空気・蒸気・微粒子の侵入を防止する役割も担っています。

当社製品は高度な密封性能を誇り、磁性流体シールにおいてトップシェアを誇ります。

中間連結財務諸表

中間連結貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第22期中間期	第21期中間期	第21期
	(平成13年9月30日現在)	(平成12年9月30日現在)	(平成13年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	10,290,389	9,078,498	11,501,432
現金及び預金	2,060,680	2,354,051	2,812,788
受取手形及び売掛金	4,175,765	4,405,216	5,138,205
たな卸資産	2,936,000	1,854,215	2,419,251
その他	1,170,396	503,585	1,191,423
貸倒引当金	52,453	38,570	60,237
固定資産	13,823,668	9,233,078	10,682,990
有形固定資産	7,993,449	3,931,259	4,941,585
建物及び構築物	2,506,528	1,467,813	2,026,837
機械装置及び運搬具	986,198	946,493	1,004,662
その他	4,500,723	1,516,951	1,910,085
無形固定資産	3,019,161	3,364,365	3,621,134
営業権	2,097,513	1,822,213	1,956,840
連結調整勘定	464,727	1,100,185	1,136,048
その他	456,919	441,966	528,245
投資その他の資産	2,811,058	1,937,453	2,120,269
投資有価証券	815,972	622,138	621,522
その他	2,318,565	1,402,309	1,576,405
貸倒引当金	323,479	86,994	77,658
繰延資産	6,403	7,506	7,200
資産合計	24,120,462	18,319,083	22,191,623

科 目	第22期中間期	第21期中間期	第21期
	(平成13年9月30日現在)	(平成12年9月30日現在)	(平成13年3月31日現在)
負債の部			
流動負債	6,725,352	5,278,691	7,217,074
支払手形及び買掛金	1,315,340	1,526,375	1,935,885
短期借入金	1,956,179	1,109,821	1,400,097
一年内返済予定長期借入金	1,635,487	1,119,549	1,109,860
その他	1,818,344	1,522,945	2,771,230
固定負債	6,033,304	3,551,024	3,856,268
社債	623,000	527,500	573,750
長期借入金	5,174,050	2,898,592	3,096,302
退職給付引当金	25,300	23,258	24,701
その他	210,952	101,674	161,514
負債合計	12,758,656	8,829,716	11,073,342
少数株主持分	472,364	6,391	398,648
資本の部			
資本金	3,812,333	3,700,929	3,751,391
資本準備金	4,414,515	4,288,322	4,339,584
連結剰余金	2,152,067	1,688,258	2,558,267
その他有価証券評価差額金	48,809	23,756	37,243
為替換算調整勘定	559,461	170,151	108,413
自己株式	128	626	780
資本合計	10,889,441	9,482,975	10,719,632
負債、少数株主持分及び資本合計	24,120,462	18,319,083	22,191,623

中間連結損益計算書

(単位：千円)

科 目	第22期中間期	第21期中間期	第21期
	平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	平成12年4月1日から 平成12年9月30日まで	平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
経常損益の部			
売上高	8,717,943	7,437,361	16,435,979
売上原価	5,143,374	4,303,597	9,350,680
売上総利益	3,574,568	3,133,763	7,085,299
販売費及び一般管理費	2,545,245	1,843,787	4,420,112
営業利益	1,029,323	1,289,975	2,665,186
営業外収益	186,378	90,571	459,955
営業外費用	218,321	298,589	563,552
経常利益	997,379	1,081,958	2,561,588
特別損益の部			
特別利益	98,676	193,437	315,476
特別損失	1,323,261	268,595	667,754
税金等調整前中間(当期)純利益	227,205	1,006,799	2,209,310
法人税、住民税及び事業税	119,109	297,004	817,540
法人税等調整額	89,391	14,571	262,036
少数株主利益	37,857	4,464	9,666
中間(当期)純利益	235,344	719,901	1,644,139

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	第22期中間期	第21期中間期	第21期
	平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	平成12年4月1日から 平成12年9月30日まで	平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	658,135	820,879	1,943,809
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,304,307	1,455,290	2,431,142
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,879,884	50,853	242,271
現金及び現金同等物に係わる換算差額	14,179	31,125	63,080
現金及び現金同等物の増加額	752,108	614,682	308,142
現金及び現金同等物の期首残高	2,812,788	2,968,733	2,968,733
新規連結子会社の現金及び 現金同等物の期末残高	—	—	152,197
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	2,060,680	2,354,051	2,812,788

中間連結貸借対照表

当中間期末の総資産は、前期末に比べ19億28百万円増加し241億20百万円となりました。その主な内訳は、本社工屋の購入、中国子会社での工場建設等により、有形固定資産が30億51百万円増加したためです。

当中間期末の負債総額は、前期末に比べ16億85百万円増加し127億58百万円となりました。その主な内訳は、長期借入金が20億77百万円増加、短期借入金5億56百万円増加したためです。

当中間期末の株主資本は、前期末に比べ1億69百万円増加し108億89百万円となり、株主資本比率は45.1%となりました。

中間連結損益計算書

当中間期の連結売上高は、前年同期比17.2%増の87億17百万円となりました。これは、真空シールと石英製品が好調に推移したことによります。一方営業利益は販売費及び一般管理費の増加等により前年同期比20.2%減の10億29百万円となりました。また経常利益は前年同期比7.8%減の9億97百万円となり、中間純利益は、業績不振の連結子会社に対する連結調整勘定の一括償却、貸倒懸念債権に対しての貸倒引当金繰入額等を特別損失に計上した結果2億35百万円となりました。

個別中間財務諸表

中間貸借対照表

(単位：千円)

科 目	第22期中間期	第21期中間期	第21期
	(平成13年9月30日現在)	(平成12年9月30日現在)	(平成13年3月31日現在)
資産の部			
流動資産	6,469,188	6,277,729	6,974,741
現金及び預金	979,310	811,438	986,448
受取手形及び売掛金	2,240,996	3,092,003	3,302,523
その他	3,248,881	2,374,287	2,685,769
固定資産	11,544,874	8,981,644	9,081,870
有形固定資産	2,930,361	781,369	703,039
建物	511,774	377,126	356,462
その他	2,418,587	404,242	346,577
無形固定資産	17,650	22,669	20,145
投資その他の資産	8,596,861	8,177,605	8,358,685
関係会社株式・出資金	5,455,393	4,819,387	5,383,393
その他	3,141,468	3,358,218	2,975,292
資産合計	18,014,063	15,259,374	16,056,612
負債の部			
流動負債	4,364,719	3,399,591	4,194,887
支払手形及び買掛金	734,452	1,182,652	1,266,165
その他	3,630,266	2,216,938	2,928,721
固定負債	4,300,181	2,215,956	1,861,464
長期借入金	4,151,482	2,130,986	1,769,744
その他	148,699	84,970	91,720
負債合計	8,664,901	5,615,547	6,056,351
資本の部			
資本金	3,812,333	3,700,929	3,751,391
資本準備金	4,414,515	4,288,322	4,339,584
利益準備金	70,147	54,247	54,247
その他の剰余金	1,102,129	1,625,634	1,892,880
うち中間(当期)未処分利益	98,282	820,335	1,087,581
その他有価証券評価差額金	49,836	25,307	37,843
自己株式	128	—	—
資本合計	9,349,161	9,643,826	10,000,261
負債・資本合計	18,014,063	15,259,374	16,056,612

中間損益計算書

(単位：千円)

科 目	第22期中間期	第21期中間期	第21期
	(平成13年4月1日から平成13年9月30日まで)	(平成12年4月1日から平成12年9月30日まで)	(平成12年4月1日から平成13年3月31日まで)
売上高	3,765,477	4,217,850	8,723,383
売上原価	2,523,285	3,040,263	6,215,318
売上総利益	1,242,191	1,177,586	2,508,064
販売費及び一般管理費	1,118,926	907,159	1,820,476
営業利益	123,265	270,426	687,587
営業外収益	140,688	119,644	372,348
営業外費用	117,056	107,669	199,367
経常利益	146,897	282,401	860,568
特別利益	17,640	74,854	96,218
特別損失	1,200,286	201,135	365,240
税引前中間(当期)純利益	1,035,748	156,121	591,546
法人税、住民税及び事業税	419,516	40,828	322,533
法人税等調整額	—	—	113,526
中間(当期)純利益	616,232	115,293	382,539
前期繰越利益	714,514	705,042	705,042
中間(当期)未処分利益	98,282	820,335	1,087,581

フェローテックデータ

会社概要 (平成 13 年 9 月 30 日現在)

商号	株式会社フェローテック
(英文表記)	Ferrotec Corporation
設立	昭和 55 年 9 月 27 日
資本金	38 億 1,233 万円
決算期	3 月 31 日
従業員数	137 名
事業所	本社 〒 104-0031 東京都中央区京橋 1-4-14 千葉テクニカルセンター 〒 289-2131 千葉県八日市場市みどり平 1-4 物流センター 〒 289-2131 千葉県八日市場市みどり平 13-5

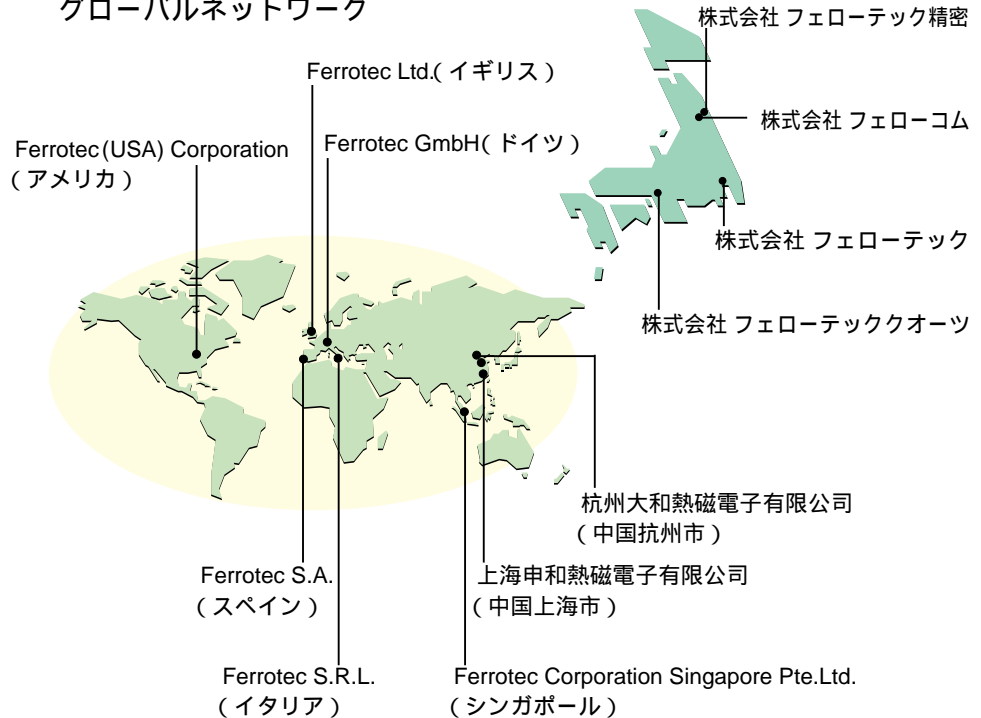
大株主 (平成 13 年 9 月 30 日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
1. 株式会社 クボタ	1,200,000	9.27
2. 山村 章	871,269	6.73
3. ザチースマンハッタンバンクエヌエイロンドン	807,000	6.23
4. 日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	679,200	5.24
5. 株式会社 小松製作所	600,000	4.63
6. 東洋信託銀行 株式会社(信託勘定A口)	559,600	4.32
7. パンク オブ ニューヨーク ヨーロッパ リミテッド ルクセンブルク 131800	427,000	3.30
8. 株式会社 東京三菱銀行	420,000	3.24
9. 住友信託銀行 株式会社	400,000	3.09
10. アイエヌジー ベアリング リミテッド セキュリティーズ クリアリング	369,000	2.85

役員 (平成 13 年 9 月 30 日現在)

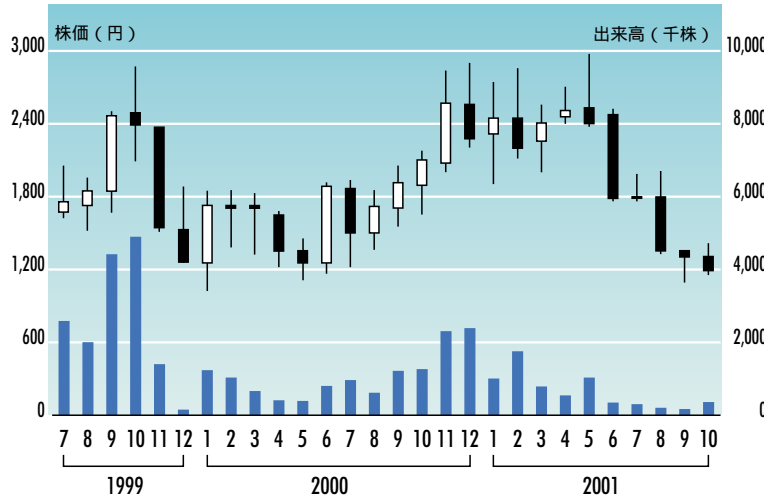
代表取締役社長	山村 章
取締役	賀 賢 漢
取締役	福 井 徹
取締役	神 野 公 行
取締役	椿 勲
取締役	鈴木 史 郎
常勤監査役	松 井 宏 之
監査役	中 元 紘 一 郎
監査役	小 林 武 彦
監査役	兼 本 雅 文

グローバルネットワーク



株式の状況 (平成13年9月30日現在)

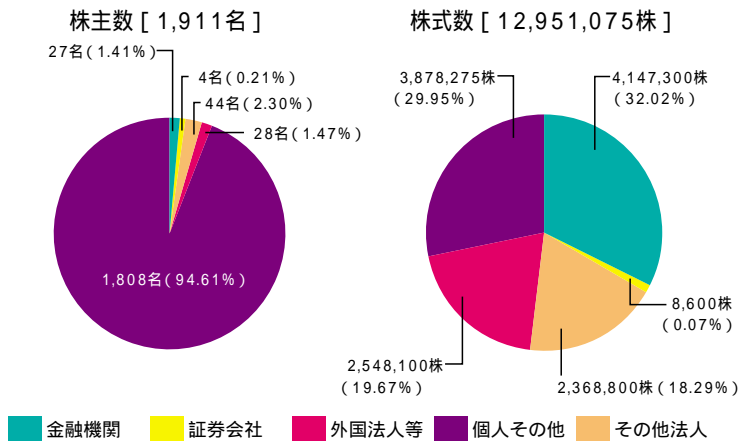
株価 / 出来高の推移



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日 株主確定	3月31日
利益配当金	3月31日
1単元の株式数	100株
名義書換代理人	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付および 電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部
	(住所変更等用紙のご請求)
	☎0120-175-417
	(その他のご照会)
	☎0120-176-417
同取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載紙	日本経済新聞

所有者別株式分布状況



お知らせ

「商法等の一部を改正する等の法律」(平成13年法律第79号)が、平成13年10月1日に施行されました。

この改正法施行により単元株制度が廃止され、新たに単元株制度が創設されました。当社は施行日をもって、単元株制度適用会社となりましたのでご案内申し上げます。

なお、当社の1単元は、従来の1単位と同様に100株であり、また、単元未満株式の買取りにつきましては、従来と同様にご請求いただけることなど株主の皆様には、格別の影響はございませんので申し添えます。

FAX送信サービス

本年10月から株主・投資家の皆様向けにFAX送信サービスを開始しました。会社案内、決算短信、事業報告書、製品紹介パンフレット、ニュースリリース等をご要望に応じてFAXにて提供いたします。

FAX送信サービス FAX 03-3281-8078

お問い合わせは、情報管理部 広報課 TEL 03-3281-8196
FAX 03-3281-8198